

# 1. 調査報告概要表

作成日 2009年3月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1072200262
法人名	特定非営利活動法人 あすなろ会
事業所名	グループホーム 結芽
所在地	群馬県北群馬郡榛東村新井1539番地3 (電話) 0279-55-1568
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2丁目29-5
訪問調査日	平成21年2月24日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年7月1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	10人 常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算 5.7

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1階建ての 階 ~ 階部分
------	--------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	21,000円(光熱水費)
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり		950 円	

### (4) 利用者の概要

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	78歳	最高	92歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	榛東さით医院、菊池医院、真下歯科クリニック、関越中央病院
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者と職員は連携を密にしながらかケアサービスの質の向上に取り組んでいる。家族等の協力を得ながら、一人ひとりの生活暦や生活習慣等を把握し、利用者が自分のペースや能力に応じた役割を持って、その人らしく暮らせるよう支援している。ホームの周辺には田園の風景が広がり、ほとんどの利用者が散歩・買物・ドライブ・花見等に出かけ気分転換を図っている。利用者が馴染みの友人・知人と出会えるよう、村の行事等に参加し地域生活の継続支援を行っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域密着型サービスとしての理念については、職員で話し合い事業所独自の理念をつくりあげている。評価の意義の理解と活用・運営推進会議を活かした取り組み・職員を育てる取り組みについては、職員で話し合い改善されている。鍵をかけないケアの実践については、職員や家族等で検討しているが、入口は施錠されており改善されていない。</p>
	<p>評価の意義や目的を職員に伝え、職員全員で自己評価に取り組み、話し合いながら作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>概ね2ヶ月に1回開催している。ホームから利用者の変動、実施報告、行事予定、評価の結果報告等を行い、出席者からの意見や要望を受け話し合いを行っている。そこでの意見等を職員会議で話し合い、サービス向上に活かしている。元利用者の家族にも会議メンバーになってもらい意見等を聞いている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議や家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意し、苦情や意見等を聞くように努めている。出された意見等は、理事長・職員で話し合い運営に反映させている。管理者が苦情対応窓口になっており、行政機関等の苦情受付先も文書で明示している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩やゴミ出しの時に、近隣の人々と挨拶や話をしており、来訪してくれる人もいる。地域の道路清掃に参加している。神社の祭りや敬老会に参加し、地域の人々と交流している。事業所の行事(花火大会・バーベキュー)の時には、地域にチラシを配り、近隣の人々との交流を図っている。</p>

## 2. 調査報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を確認しながら職員間で話し合い、サービスのあり方を解り易く示した事業所独自の理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、ミニカンファレンスや申し送り時等に理念を共に意識しながら話し合い、ケアの方向性を確認している。理念に基づいた生活が送れるよう日々取り組んでいる。入口に理念を掲示している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時やゴミ出し時等に近隣の人々と挨拶を交わしたり、話をしている。地域の道路清掃に参加している。地域の神社の祭りや敬老会に参加している。地区の運動会を見学している。ホームの行事(花火大会・バーベキュー)には、近隣の人々にチラシを配り参加を呼びかけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を職員に伝え、職員全員で自己評価に取り組み、話し合いながら作成している。外部評価の結果を踏まえ、職員会議や運営推進会議で話し合い具体的な改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回開催している。ホームから利用者の変動、実施報告、行事予定、評価の結果報告等を行い、出席者からの意見や要望を受け話し合いを行っている。そこでの意見等を職員会議で話し合い、サービス向上に活かしている。退去された利用者の家族も会議メンバーに加わっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	質問や相談事があれば、その都度、村役場窓口に向いたり、電話で担当者に相談しており、アドバイスももらっている。ホームの行事(バーベキュー、敬老会)に担当者に参加して頂き、利用者・職員と交流を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時には、個人日誌を閲覧してもらい、健康状態や暮らしぶりを報告している。必要に応じて電話で報告することもある。毎月「結芽だより」を発行し配布している。家族等と金銭管理の取り決めをしており、月1回その出納を明示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意しており、苦情や意見等を聞くようにしている。出された意見等は理事長・職員で話し合い、運営に反映させている。管理者が苦情対応窓口になっており、行政機関等の苦情受付先も文書で明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わる場合は、利用者・家族に紹介し、運営推進会議で報告している。新入職員には、2・3回ボランティアに来てもらい、入職時にはオリエンテーション・施設内研修を行っている。2週間位先輩職員が共に働きながら指導し、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は順番に研修を受けるようにしており、実践者研修、高齢者虐待防止セミナー、応急手当講習等に参加している。研修報告書を作成し回覧しており、会議時や日常の中で他の職員に伝え、共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、大会やレベルアップ・交換研修に参加し情報交換や意見交換等を行っている。3ヶ所の事業所と交流を図っている。リハビリテーション広域支援センター(前橋)の勉強会に参加し、情報交換等を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅や施設等に訪問し、本人・家族等から思いや状況、困っている事等を聴くように努めている。本人・家族等の見学時には、お茶を飲んだり、レクリエーションに参加してもらう等雰囲気を知ってもらえるよう配慮している。入居後も家族等と相談しながら、徐々に馴染めるよう支援している。		
ysx座yywq					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の生活場面で、利用者から昔の話(出来事・行事等)を聞いたり、昔の歌、生活の知恵等教わる事も多い。本人を介護される一方の立場におかず、共に過ごし支えあう関係づくりに留意している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族等から情報を得て、「私の生活史・私の暮らし方シート」を作成している。それを活用し、日常の行動や言葉・表情等から本人の思いや意向の把握に努め、家族等からも情報を聞き取り、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等には、日頃のかかわりの中で、思いや意向を聞き介護計画に反映させるよう努めている。必要に応じて、家族と関係者に来訪してもらい話し合いの場を持っている。毎日ミニカンファレンスで課題解決に向けた話し合いを行い、意見や気づきを反映させた利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは概ね6ヶ月に1度と状態の変化に応じて実施している。職員間で話し合い、本人・家族等に確認しながら、その都度現状に即した新たな計画を作成している。	○	新たな要望や状態に変化が見られない場合でも、本人・家族等の意向や状況を確認しながら、月に1度はモニタリング(記録)を行い、介護計画の遂行状況、効果等を評価し、少なくとも3ヶ月に1度は見直しを行ってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望や都合に応じて、受診・通院同行、入院時の支援、帰宅支援等柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の意向を確認し、希望するかかりつけ医で適切な医療を受けられるように支援している。かかりつけ医が2週間に1度往診に来訪している。職員2名が看護師である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、最重度化・終末期の対応について説明を行い、その状況が近づいてきた段階で、医師からの病状説明に同席し、家族等と話し合いを行っている。方針や情報は全員で共有している。	○	事業所として対応しうる最大の支援方法を踏まえて、重度化や終末期に向けた対応の方針を定め、それを文章化し、できるだけ早期から本人・家族等、かかりつけ医等ケア関係者と話し合いを繰り返し、その時々家族等の意向を確認しながら、関係者全体で対応方針の統一を図っていかれるとよいのではないかと。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を大切に、さりげない言葉かけや対応に配慮しながら支援している。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション、おやつ作り、ゲーム、個別リハビリ等一人ひとりの希望に応じた活動支援を大切にしている。遅い起床・時間をかけた食事・食後の一服・晩酌等、一人ひとりのペースを大切に、その人らしい暮らしができるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、盛り付け、味見、おしぼり配り、テーブル拭き等、力量に応じて職員と一緒にやっている。利用者と職員が同じテーブルを囲み、楽しく食事ができるよう支援している。おやつや飲み物は可能な限り希望を取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・水・金の午前中を基本としているが、日曜日以外は希望に応じて入浴可能となっている。一緒に入りたい人やタイミング等は個々に配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カーテン開け、掃き掃除、テーブル拭き、洗面台磨き、カラオケ、ぬり絵、算盤計算、季節の花見、公園でのお茶会、家族参加のりんご狩りやぶどう狩り、ボランティア(ハーモニカ演奏・手品等)の来訪で、役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外気浴、散歩、ドライブ、買物、季節の花見、畑でのセリ摘み、いなご捕り、近所の公園へ出かけてのお茶会(おやつ持参)等日常的に戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出願望の強い利用者があるため、家族等に同意を得て、日中、入口扉は施錠している。	○	自分の行動をコントロールされる理由や規則を理解することが難しい利用者にとって、鍵をかけられ、自由に外に出られないことによる心理的な抑圧感や不安は大きい。職員の連携で、出て行く気配を見落とさない見守りの方法を徹底し、一人ひとりのその日の気分や状態像を把握しながら、鍵をかけずに自由な暮らしを支援して欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難誘導訓練や消火訓練を実施しており、1回は消防署の指導を受けている。防火設備会社からの定期的な点検・指導訓練を受けている。ホームの行事に参加された近隣の人々に協力の依頼をしている。交番や消防署にも働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食が進まない時には、食事の工夫をしたり、栄養価の高い食べやすい食事を提供している。利用者の好みのメニューや季節の料理を取り入れながら献立を作成している。毎食の食事量を記録し、職員は情報を共有しながら支援しているが、水分量の記載は行っていない。	○	一人ひとりの水分量を確保するために、一日全体でのおよその摂取状況を記録し、水分摂取量を把握していつてほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前に花を植え、ベンチを設置している。室内は季節の花を飾り、季節・時期に合わせた装飾を行い、静かな音楽を流したりしながら心地よい環境づくりに努めている。一人ひとりがソファーやマッサージチェア、カウンター等好きな場所でゆっくり過ごされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはカーペット、衣装ケース、時計、椅子等馴染みのものや使い慣れたものが持ち込まれており、本人の作品を飾る等、安心して過ごせる場所となっているように見受けられた。		